

第4回「農村振興政策推進の基本方向」研究会 議事要旨

日時：平成19年12月3日(月)10:00～11:40

場所：農林水産省第2特別会議室

出席委員：三野座長、近藤委員、澤井委員、中野委員、
野口委員、宮城委員、山内委員、横山委員

【議 題】

研究会中間とりまとめ(案)の議論

【議事内容】

- 1 研究会中間とりまとめ(案)について事務局より説明を行った。
- 2 資料説明後、意見交換が行われた。
- 3 本日出た意見に関連する修正については、座長に一任された。

<委員の主な発言>

- 前回までに事務局より提示されたポンチ絵について、「方法は書いてるが、農村の将来像が見えにくい」との指摘があったようだが、現在作成中の国土形成計画の中でも農村の将来像が不明瞭であったため、『21世紀日本の国土のグランドデザイン』の「多自然居住地域」を一步進めた「共生居住地域」という概念を提案した。これは、豊かな自然環境に恵まれた農山漁村地域が、新たな生活様式を可能とする国土の中の循環型社会のフロンティアと位置づけたいというもので、これが今回の(案)では「自然との共生空間」との表現になっていると考えている。
- 前回の案では、都市近郊地域の扱いが不足していたと感じたので意見を提出した。都市が、コンパクトシティで縮小するとすると、都市近郊地域の扱いが重要になる。都市近郊地域は、平地の農業地帯と異なり、基盤整備が出来ていない結果、非常に良い自然環境がそのまま残っているので、ここを田園自然居住が可能な地域として、自然再生に関連して、農業農村サイドで扱ってはどうか。
- 農山漁村のコミュニティの事務局機能が弱まっている。政策を実施しようとしても機能しないのが現実なので、事務局機能の充実、人材育成が必要である。
- 農村にとって農業は核であるかもしれないが、農業振興のために農村振興があるのだろうか。治める者が替わっても、そのまま農村が存続してきたことなどを見れば、国よりも村の方が持続力がある。農業が主で、農村が従ということではなく、農業と農村は対等と考える。
- 「集落間連携」としているが、「間」をとって「集落連携」でも良いのではないか。
- 「企業の社会的責任(CSR)」については、その意味を明確にするため、例えば「経済的成果に留まらず、環境や社会の改善のため自発的に取り組むこと」といったような説明文が必要ではないか。また、企業に対する社会的要請が列挙

されているが、出典が少し古いので、取捨選択して、文章化した方がわかりやすいのではないかと。

- 都市近郊の農地・農村のあり方については正面から論じていないのではないかと。その議論はいずれしなければならない。コンパクトシティに対して、農村は別の戦略が必要。ヨーロッパとアジアでは違うのだが、今後の日本についてはどうなのか、今後の課題として検討いただきたい。
- グローバル化については、農産物の輸出入の話だけではなく、21世紀のアジアにおける日本の農村のあり方を考えるべきではないかと。特に中国の農村部の動向が大きく影響する可能性がある。いずれ、計画的に大量に農村へ外国人の季節労働者を受け入れることも考えなければならない、そういうことも考慮すべき。
- 血縁型コミュニティの再編成・再構築をどういう方向で進めるのか、具体のイメージが湧かない。例えば、テーマ型コミュニティが入ってきて、血縁型コミュニティ化していくということなのか。
- 生活環境基盤の水準を「効率的に維持できる」ようにとあるが、一般的に人口密度の低い農山漁村地域においては、経済効率的には無理なのではないかと。住民同士の共助や、住民と行政とのパートナーシップなど、相互的にカバーし合うということならできるのではないかと。
- 省庁間の連携を進めることや、都道府県の大きな役割について、強調して前面に出す書きぶりでも良いのではないかと。
- 中間とりまとめの内容について、外向けへの発信は、何を強調していくことになるのかを明確にしておくべきではないかと。
- 農村政策は、その戦略性、体系的な施策の引き出しという点で立ち後れていたが、本研究会の議論でその遅れを取り戻したものとも考えられる。その意味で、政策におけるインパクトのある位置づけ、更にバージョン・アップする努力が必要
- 副題について、手段が前面に出ているので、例えば『連携と都市との協働による共生空間の構築』とか「むらづくり」に変わる言葉を体言止めで入れる必要がある。
- 国民一人一人に広く伝えることが大事であり、新たな国民運動の構築が課題となる。
- 今回の研究会の中間とりまとめについては、基本計画よりも上位に位置付けるぐらい重みがあるものになっていると考えている。
- この中間とりまとめの内容を、いかに現場で推進していくか、そしていかに実践していくかが非常に大事である。
- 現場サイドからすれば、「集落間連携」の「間」はあった方が良い。
- 「集落の再編」が「コミュニティの再編」となったことは良いことと考える。